

意見広告
賛同の締め切りは
11日 (必着)
です。

安倍「反民主主義政治」に意見広告で「NO!」を あなたの怒りを紙面にのせよう。

12月の初めにみなさんに賛同を募るチラシをお送りしてから3カ月余り。今年も例年のペースで賛同金が集まりつつあります。しかし例年通りというのはまだまだ爆発的な盛り上がりを見てはいないということです。今回ほど、憲法記念日の意見広告が重大な意味を持つことはないというのに。今号がお手元に届くのは、賛同金の締め切りまであと10日を切った頃でしょうか。もし、まだ賛同していないかたがいいたら、今すぐ賛同をお願いします。

暴走する安倍政権は戦後「最凶」内閣だ

新聞を開き、テレビでニュースを見るたびに、数を頼む安倍政権の暴走がいやでも目にはいつてきます。集団的自衛権行使容認を閣議決定? 武器原則輸出禁止の転換? 政府見解の記載された教科書? 問題はそれだけではありません。安倍氏本人はもとより側近やその意向をくんで任命されたNHK会長、経営委員の驚くべき歴史認識などなど。現政権の中核やそのまわりにいる幼稚な人達の幼稚さにも目を覆いたくなるばかりです。日本はわずか2回の国政選挙だけで、あの戦前への道を猛スピードでもどりつつあります。

「何を」はもちろん、「どう」伝えるかが重要

東京都知事選挙では極右候補に20代30代の支持が集まったといわれます。私たちの思いをどう彼らに届ければよいのか?

若手評論家宇野常寛さんは、「平和や公正を重視する」リベラル

勢力は数十年前から更新されない言葉で教条的かつ精神論的な憲法9条擁護論を繰り返すだけで現実存在する国民の不安に対応しようとしなない。リベラル勢力にはある種の大衆蔑視があり、性急な改憲や(保守派の掲げる)「重武装化」以外の手段を講じた方が国防に結びつくというアピールが足りていない。」(2月12日朝日新聞朝刊「若者に届かぬ「リベラル」からの抜粋」と述べています。

読者の心に届く、まっすぐで、しかもチャームिंगな言葉を選び、安倍政権の繰り出す憲法破壊の政策に対抗して広範な市民の協力を呼びかける内容になるよう、事務局ではみんなが知恵を出し合って議論を続けています。

毎年のことだけど、いつもどおりではない! 今年は本当に特別な意見広告です。今号にも賛同チラシを同封しました。明日にも閣議で集団的自衛権の解釈が変えられてしまうかもしれない現状を反映したものに、内容を一部改定してあります。

みなさんの最後のご協力をどうぞよろしくお願いします。

掲載予定紙は5月1日にホームページでお知らせします。4月20日までに返信先を記入した往復はがきをお送りくださったかたには、予定紙をご連絡致します。

(きたはら・ひろこ/意見広告運動事務局)